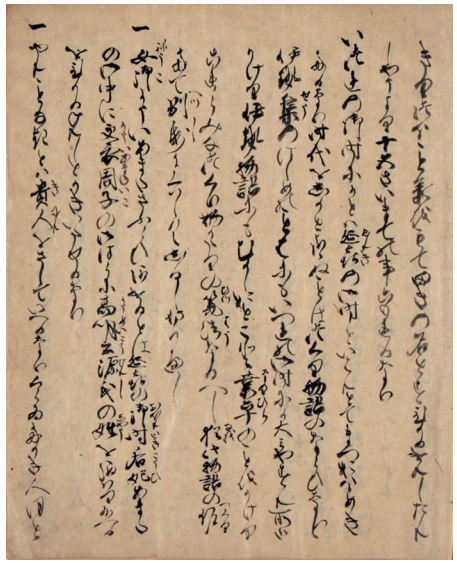
国風文化（源氏物語）



＊一般郷土史料　貴重16「源氏物語古註」（桐壷の巻）の表紙と冒頭

解　説

平安時代半ばの貴族たちは，唐風の文化をふまえながらも，日本の風土や生活，日本人の感情に合った文化（国風文化）を生み出しました。

漢字を変形させて，日本語の発音をあらわせるように工夫した仮名文字はその代表的なものの一つです。これらの仮名文字を使って，天皇の后に仕えた才女たちがすぐれた文学作品を生み出しました。

紫式部の「源氏物語」は，その代表的な作品です。11世紀初めころに成立したこの作品は，54帖からなる大作で，宮廷や貴族の生活を題材にした構成・心理描写・自然描写には大変すぐれたものがあるとして，国際的な評価もきわめて高いものです。

写真は，戦国時代の武将ですぐれた歌人でもあった細川幽斎（1534～1610）が書き写した「源氏物語」の注釈書です。当時の武士たちは，連歌などをたしなむためにも，一般教養として，源氏物語に関する基本的な知識を身につけておく必要がありました。戦国武将と源氏物語。一見すると意外な組み合わせですが，源氏物語が古典として後世に読み継がれてきた要因としてこういった側面もありました。

＊「源氏物語古註」は，『翻刻「源氏物語古註」』（新典社，2006年）で活字になっています。
＊当館には，「麦生（むぎゅう）本源氏物語」という著名な写本もあります（近藤清石文庫12）。

山口県文書館所蔵アーカイブズガイド学校教育編
目次に戻る